

久しぶりに体育館で皆さんに向かってお話ができることに、まず嬉しさを感じています。

今年1年を振り返ると、なんと特別な年だったかと思います。実質のスタートは6月から。そして行事をはじめとする学校の活動から、皆さん一人一人の生活まで大きな制約を受けました。そして同じ困難を、全世界の人が共有する事態になっています。

さて、皆さんは「塞翁が馬」という故事をご存知でしょうか。古代中国で国境の近くの塞（とりで）の近くに住んでいた老人（翁）が主人公です。ある時、彼は近所でも評判の良い馬を持っていたのですが、ある時馬が蜂に刺され、驚いた馬は家を飛び出しどこかに行ってしまった事件が起きました。世間の人ほとんどは運が悪いことだと同情しましたが、当の本人は、「いや、これがきっかけで良いことが起こるかもしれない」我慢していました。するとしばらくしたらその馬が戻ってきました。驚いたことに、1匹の白い立派な馬を連れて。世間の人うわさしました。「こんな幸運なことはあるか」と。しかし、老人はこう言いました。「いや、これがきっかけで悪いことが起こるかもしれないぞ。」その予感は当たりました。彼のかわいがっていた息子が、白い馬に乗っていた時に落馬して足を怪我してしまったのです。世の中の人ほとんどは「なんて運が悪い」と同情します。しかし老人はなんて言ったか、もうわかりますね。「いや、これがきっかけで良いことが起こるかもしれない」と我慢をしていました。すると、隣の国と戦争が起きました。若い男はみな兵士にとられ、戦死しました。ところが、老人の息子はけがのために兵役を免除され無事でした。そして戦争が終わり、老人と息子は幸せに暮らした、という話です。

新型コロナという悪いことが起きて、世の中は悲しみに包まれました。皆さんもさまざまな苦しい経験をしたと思います。またその一方で、みなさんにとって「塞翁が馬」は何だったのでしょうか。逆境だったからこそ頑張ったり、知恵を出して工夫して良かったこと、満足したことはなかったのでしょうか。

日頃の友人関係でも部活動でも生徒会活動でも、皆さんを見ていると私は、それをいろいろなところで感じています。ぜひその経験を大切にして、これから素晴らしい来年度を作り出してほしいと願っています。

最後に、新型コロナウイルス感染症の第3波も峠を越えてよかったかに見えますが、「塞翁が馬」を応用しましょう。長野地域では依然として「レベル4」であり、まだまだ決して油断はできません。しばらくは同じ状態が続くのだと思って気を引き締めてください。 終わります。